

チンポが生えて 幸福に沈むまで

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



宮瀬 レイカ
生徒会長

宮瀬レイカは
名門お嬢様学校として
有名な由緒正しき
女学院の生徒会長。
成績優秀、品行方正で
周囲からの信頼も厚い。
誰もが前途有望な
彼女の将来を楽しみに
していた。

しかし、ある事件が
彼女の人生を大きく
狂わせてしまう事になる。



「な…何なの？
…これ？」

放課後、生徒会の活動中に
股間に経験のない違和感を感じて
レイカはトイレに駆け込んだ。
個室に入り、スカートを捲り上げると
そこには勃起した男性器があった。
レイカは困惑しながらも、自分の体に
突如現れた異物に恐る恐る手を伸ばした…。



「…んおおおっ!?」

数分後、レイカは自分が
男性器を両手で握り締め
激しくオナニーを
している事に気が付いた。

しかし、理性では制御出来ない快感が
全身を支配し、男性器をしごく手を
止められず、自分の声とは思えない
下品な声を発しながら、欲望のままに
精液を吐き出し続けた。



ノックの音で我に返り
固まっていると…。

『あの…大丈夫ですか?』

『苦しそうな声
だったので、具合が
悪いのかなって…。』



『そ…そうだ！
私、保健室の先生
呼んできますね！』

…この時、
すでにレイカの
理性は性欲に
支配され、崩壊が
始まっていた。

「これがマンコ…！
チンポを気持ち良く
させる為の穴！
んひいっ…セックス最高！
オナニーよりずっと
気持ち良いじゃない!!」

親切心から声を掛けて
くれたであろう女子生徒でも
今のレイカにとっては
性処理の捌け口に過ぎなかった。

ドクッ

ドクッ

帰宅途中、公衆トイレに入っていく他校の少女を見つけたレイカは少女を追ってトイレに向かった。

はあ♡

はあ♡

僅かに残った理性で顔を見られない様に下着で顔を隠し、少女が個室の鍵を閉める前に中に押し入った。そして困惑する少女の口に男性器を無理やり挿入した。

『んもおっ!?もごおおっ!?』

「大人しくしてて…。」

私のチンポが満足するまで

ちよっとお口を借してね…。

んほおお…これがフェラチオ♡

マンコとは違った感覚ね…♡」

その後、少女は徹底的に口と喉を凌辱され、胃袋が破裂しそうになるまで精液を飲まされた。



翌日、女学院はいつもと
何ら変わらない様子だった。
女子生徒が乱暴された…
周辺に不審者が現れた…
そういった話は聞こえてこない。

「マンコ…♡
マンコ…♡」

「私のチンポと
一緒に幸せに
なりましょう…♡」

それを良い事にレイカは
性欲を満たす為に更に
被害者を増やしていった。
上手くやれば女であるはずの
自分はまず疑われない…。
そう確信して犯行を
繰り返し、彼女に襲われた
被害者は1週間で
30人以上にも及んだ。



欲望のままに犯行を繰り返していた
レイカだが、そんな日々は長くは続かなかった。
それは最初の時と同じく、トイレで女子生徒に
背後から襲い掛かろうとした時だった。

「ほぎよっ!？」

ぐっ…ごげえええええっ!!」

女子生徒はレイカの腕を容易く
振り払うと素早く背後に回り
首を締めあげた。

『な…何だ、こいつ？
ん…あれ、この人って…。』

この女子生徒は格闘技の全国大会で、
優勝経験もある猛者だった。レイカは為す術なく
返り討ちに遭い捕らえられ、最近の事件が
全て彼女による犯行だと断定された。

実際には学院は被害の相談を受け、
事件を早期に把握していた。
しかし、レイカの犯行が公表される事はなかった。
多くの被害者が発生している事件にも関わらず
学院は事件の隠蔽を決断した。

宮瀬家含む政界や有力者の親族も多く在学する
名門校の不祥事、謎の奇病、様々な事柄を
考慮しての決定だった。

んや
るっ

「マンコ！マンコ！マンコオオオオ!!」

グハッ

グハッ

グハッ

現在、宮瀬レイカは難病の研究が行われている
医療機関に嚴重に収容されている。
学院では表向き、難病の治療で休学した事になっていた。
女性器の大部分が男性器に変化し、性欲に脳が支配され
制御不能になる世界でも初めての症例だった。



レイカの事例は非公表であるが
後にネット上では「ふたなり化現象」と呼ばれる
数々の事件の中で時系列上、最初に発生した事例として
一部の関係者のみが共有する機密情報となっている。

レイカの理性は完全に消え去り、今は性交の
快感を反芻しながら再び性交する機会を
待ち焦がれるだけの誰が見ても憐れな存在だった。
最早、彼女の将来を楽しみに待つ者はいない。
しかし、本能だけで生きている今の彼女には
悩みも、しがらみも何もない。
一つの完成された幸福に彼女は身を委ねていた。

岩崎 マコト
陸上部員

岩崎マコトは強豪陸上部短距離の期待のエースだった。明朗快活、天真爛漫な性格で常に前向きな彼女はそこに在るだけで周囲に元気を与える存在だった。

そんな彼女に異変が起きたのは県大会が数日後に迫ったある朝の事だった…。



「え……？」

こ……これって……

あれ……だよな？」

自主参加の朝練の最中にマコトは服の中に違和感を感じ、部室に戻った。服の中から現れたのはどう見ても勃起した男性器そのものだった。それは信じられない事に明らかに自分の体から生えていた。

「ど……どうして……？」

マコトは脈打つ肉棒にゆっくり手を伸ばした……。



「ほっ♡ほっ♡ほっ♡」

マコトは無意識のうちにオナニーを始めていた。
他の部員が来たら…誰かにこんな所を見られたら…
何故かそう考える程に興奮は高まっていった。

「んほおおおおおっ!?
きた…出る…出ちゃう!!」

イッテラッ

ビュッ

ビュッ

ビュ
ルルルルッ

幸い部室には誰も来ず
勃起も収まったので
マコトは素早く飛び散った
精液を拭き取り、着替えて
教室に向かった。

授業中、再び勃起してしまい
マコトはバレないように
注意しながらオナニーを始めた。

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

壁際の一番後ろの席ではあるが
先生やクラスメイトにいつ気付かれても
おかしくない状況に、興奮が収まらず
授業が終わる直前まで何度も射精した。
精液でぐちゃぐちゃになったノートは
机の奥に押し込んで隠したが、変な臭いが
すると話すクラスメイトが数人いて
放課後まで緊張が続いた。



ハア…

ハア…

放課後、マコトは病院に行くと言った。嘘をついて部活を休んだ。

だが本当は人が少なくなった校舎でオナニーをする為だった。

マコトは露出オナニーの快感にハマってしまっていた。

放課後とは言え、文化部や教員、一部の生徒は校舎に残っていた。

「あ…危なかった…。今の山田先生だよ。」

もし…こっちに曲がって来てたら…。」

マコトの想像以上に放課後の校舎は人が多く

度々オナニーを中断する事態が発生した。

あまりにも危険性が高過ぎると判断し

もって解放的に露出オナニーを楽しめる

時間帯を検討する事にした。



県大会前日、マコトは校舎のトイレに隠れ、夜になるのを待った。
まだ職員室に人が残っていて
防犯システムが作動していない事を
確認してから徘徊を開始した。

ドキッ

「私…何やってるんだろう…?
大事なユニフォームに
穴まで空けちゃって…」

ドキッ

夜の露出は昼間とは違って誰かに見つかる
スリルが少ない分、堂々と変態的な格好で
校舎を歩く事が出来て、圧倒的な解放感があった。

かつてないほど勃起したチンポを
揺らしながら、時に走ったり、スキップしたり
思うままに校舎を徘徊した。



カッ カッ カッ

徘徊を楽しんでいると
曲がり角の向こうから
光と足音が
接近してる事に
気付き、マコトは
我に返った。

ビュッ



マコトは咄嗟に運良く
施錠されていたなかった
教室に隠れて
息を殺し、足音が
遠ざかるのを待った。

段々近付いてくる足音に胸は高鳴り
チンポをしごく手は速さを増していく。

ついに扉のすぐ向こうに足音が
迫った瞬間、マコトは絶頂した。

ハッ

『人影が見えた気がしたが…？
いや、気のせいかな…』

この時の絶頂が切っ掛けとなり
マコトの頭のネジは完全に外れてしまった。
見つかる寸前でこれなら、見つかった瞬間は
想像を絶する最高の快感が味わえるはずだと…。

ハッ

ビュッ

ビュッ

びゅるるるるる



!?

その日、岩崎マコトは
人生最大の絶頂を全身で
感じながら…

ほっ

おっ

おっ

おっ

その場にいた誰よりもはやく
人生のゴールテープを切った。



平沢 マナミ
●学生

平沢マナミは同年代に比べてとても大人びた少女だった。両親含め、ろくでもない大人達ばかりの複雑な家庭環境で育った彼女は彼らを反面教師にして、将来は誰から見ても尊敬される様な立派な大人になろうと考えていた。

ところがマナミは自分が周囲のろくでもない大人達よりも更に最悪な大人になってしまいう事をまだ知る由もなかった。



異変が起きたのは夕飯の弁当を
買ってから帰宅した直後の事。
突然、股間から何かが生えてきた。

「は…う…え…？」

どうなってんの？

これ…ち…ちんちん？」

小さな体にそぐわない
極太の陰茎が服を突き破りそうな
勢いで、いきり立っていた。

「え…なんか染み出てる…？
き…キモい…。」



困惑していると部屋に落ちていた一冊の本が目に入った。
それは父親が読み捨てた成人向けの雑誌だった。
普段なら汚らしいものと思って、見向きもしないが今日は違った。
雑誌を拾い上げて本を開いてみる。

はぁ…♡

はぁ…♡

「お…おお…。
凄い…。エロい…。
女って…エロい！」

自分はまだこの本を
読んじゃいけない…
頭ではそう思っているけど
ページをめくる手が
止まらなかった。

「これが…大人の世界なんだ…。
何か…ドキドキして
頭がフワフワしてきた…。」



「めっちゃエロい…。
おっぱい、マンコ、セックス…
はあ…はあ…おっ!?
んおっ…おっ…おおっ!?」

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ドビュッ

ズビュッ

マナミは雑誌を読み終えると、
部屋の中を探し回りAVを見つけ出した。
両親は滅多に帰って来ないので
堂々と居間で夜通し視聴した。

マナミはまだオナニーを
理解していなかったが
本能が自然に陰茎をしごかせ
初めての射精に導いた。

翌日、いつも必要な物は自分で勝手にネット注文しろと言われていたのので親のアカウンツからオナホールを注文した。一晩中アダルトビデオを視聴してマナミは多くの性知識を学んでいた。

「んっほおおおっ!!
すっげー!これすげえ!」

ビクッ

ビクッ

「やべえ♡オナホ超やべえ♡
にゆるにゆるで超気持ちいい♡
おっ!?イクっ!またチンポイクっ!!」

じゃぽっ

じゃぽっ

じゃぽ



オナホの快感に感動したマナミは追加で大型のオナホールを注文した。

「ふんっ！ふんっ！ふんっ！
すげえ…こんなのもう
本物のセックスじゃん…！
おらおらあ！私の極太チンポで
妊娠させてやるよお!!」

「あゝ本物…本物のマンコに
チンポぶち込みてえ…！
本物のセックスしてえ…!!
そうすればあ…いひひひっ!!」



ピンポン

マナミは同じアパートに
夫婦二人で住む、いつも
自分を気に掛けてくれる
優しいおばさんの
部屋を尋ねた。

「おばさん！
マンコ借して！」

ハア

ハア

今のマナミの目には
尊敬すべき優しい大人であっても
性欲を満たす為の単なる道具にしが
見えていなかった…。

『あら？』

マナミちゃん
じゃない。』

『どうしたの？』

今日は学校はお休みかしら？』

その日の夜…
帰宅した
おばさんの夫は
信じられない
光景を目にした。

!?

パンパンパン
パンパンパン

ビクッ

「おらっ!!おらっ!!
おいババア!!
もっとマンコ締めろ!!」

お

お

『ごっ…ごめんにあひやいっ!!
マンコ締めましゅっ!!』

パンパン

「いいぞ!ババア!
膣内に出すぞ!!」

ビクッ

『ほおおおっ!!

ありがとう

ござい
ましゅっ!!』

お
ビクッ

「本物マンコ!!本物セックス!!
これで私も立派な大人あつ!!」

パンパン
お

パン

三上 エリカ
OL

三上エリカは有名な大企業に勤めるエリート社員で優秀な仕事ぶりを評価され異例の早さで出世し、若くして部長に抜擢されている。メディアにも会社を代表する優秀な社員として取り上げられインタビューを受けるなどその活躍ぶりは有名だった。

全てが順調に思えた彼女の人生は、ある出来事が切っ掛けとなり一変する。



残業で遅くなった夜、帰宅しようとして
会社の玄関に向かっていてる途中で
突如、雷に打たれた様な衝撃が
エリカの全身を貫いた。

何が起こったのかさえ把握出来ないまま
エリカは意識を失い、その場に倒れ込んだ。



エリカの股間から現れた
異常なまでに巨大な
男性器は本人が意識を
失ってもなお、射精を
続けていた。

ビクッ

ビクッ

ビクッ

エリカが倒れているのを最初に
発見したのは一人の警備員だった。
警備員は声も掛けず、自身の
スマホで倒れたエリカを撮影した。
その後、彼女の体を担ぎ上げ
会社の外へと向かって行った。

——廃ビル
地下倉庫内

「ん…？」

目が覚めると体を拘束された上に
体から異常な物体が生えている事に
エリカは気が付いた。

「な…何なのよ
これは!？」

ブ…ビョ

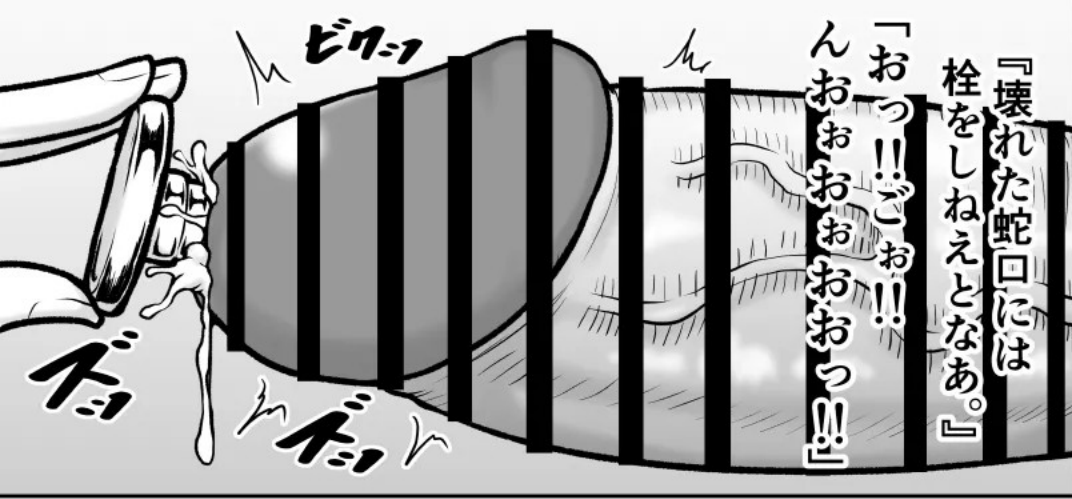
そう言って警備員の男は先程撮影した
写真をエリカに突き付けた。
「や…やめて!」
どうして…こんな気持ち悪いものが
私の体に生えてるのよ!？」

『…最近ネットで噂の「ふたなり化現象」ってやつか。
まさかあの噂が本当だったとはな。』

「私を…一体どうするつもりなの…？」

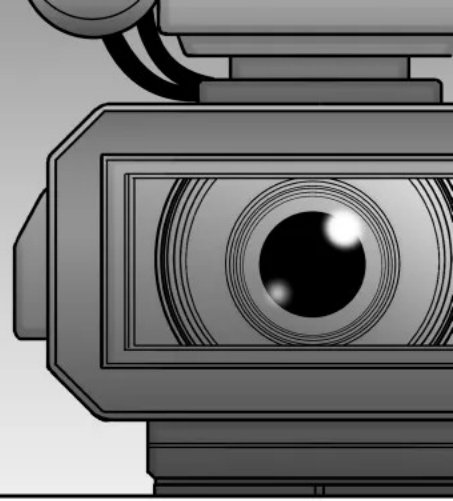
混乱するエリカの前に見覚えのある
警備員の男が近付いて来る。
『目が覚めたか？』
騒いだり、暴れたり、面倒はやめてくれよ？
この画像をネットに晒されたくはないだろ？』

『せっかく珍獣が手に入ったんだ…。
つまんねえ仕事なんて辞めて
あんたの体で楽しく一稼ぎさせてもらおうか…。』



『壊れた蛇口には
栓をしねえとなあ。』

「おっ!!ごっ!!
んおおおおおっ!!」



『俺はお前みたいなお高く留まった女が一番嫌いなんだ。徹底的に調教してやるから覚悟しろよ…。』

「お…お願い! 許して!許してえ!!」

「ひぎいっ!!
ぎゃひいっ!!
や…やめてえ!!」

警備員の男はかつてAV業界で働いていたが過激な撮影によって女優にケガを負わせた事が問題となり業界を追放された過去があった。

『今はネットでいくらでも作品を出して稼ぐ手段があるからな。良い時代だ…。』



『家畜用の興奮剤を用意してやったぞ。
このサイズならピッタリだろう?』

「んぎいいいい
いいいいいい♡」

グッ



「射精…射精を
させてくださいいい…。
お願いしますううう。」

『駄目だ。
次の射精許可は
12時間後だ。』

ビクッ

「そ…そんな…」

死ぬう…死んじゃう…

射精しないと死ぬう…。」

ビクッ

じゅぽ

じゅぽ

『久しぶりに外を歩く気分はどうだ?』

「ぶひいっ!ふごっ!
ふごっ!おぶひいっ!」

『散歩が終わったら
また興奮剤を打って
射精させてやるからな。』

「ぶひひいんっ♡」

ブー♡

ブー♡

「一本目の動画の編集も済んだ。
いよいよAVデビューだ。
そうだ:会社の連中にも宣伝してやるか。
お前のデカパイをズリネタにした
野郎共は泣いて喜ぶだろうよ。」

「ぶっひいっ!!」



三上エリカの社内メールのアドレスから
一斉送信された動画ファイルの映像

「三上エリカでえーす！AVデビューしまーす！！
タイトルは『大企業のエリートOL実名AVデビュー！
変態チンポメス豚三上エリカの調教目録』でえーす！！」

「デビュー記念！エリカチンポの
大射精をご覧くださいさーい！
んおおおっ！！チンポイくっ！！
イっぐうううううっ！！」

アホ
バカ
ビュ
ビュ
ブル
ブル
ブル



■あとがき

サークル楽園屋の楽と申します。
この度はご購入頂き、誠にありがとうございます。

22作目です。前作から随分、間が空いてしまいましたね…。
制作期間中、人生で初めて入院して大変だったので、無事こうして新作を
完成させる事が出来て本当に良かったです。
その節は本当に色々ご心配をお掛けいたしました。

前作の支援サイトのまとめを除くと、いつものモノクロ作品よりも
少しだけページ数がボリュームアップしていますが、いかがだったでしょうか？
各キャラ8ページの構成は初めてでしたが、じっくり各キャラを
描く事が出来て、自分としては最後まで楽しく作業に取り組みました。

内容に関しては、楽園屋らしい無様エロ要素も取り入れたふたなり作品を
基本にして、各キャラにそれぞれ違った特色を盛り込んでみました。
少しでも気に入っていただけるシーンが描けていたら幸いです。

次回は多分、人生終了シリーズの番外編を描く予定です。
2作目以来の男キャラメインの作品となります。女装や男キャラならではの
無様エロを存分に描けたら良いなと思っています。
チンコが連続する形になってしまいますが、ご容赦ください…。

それでは機会があればまた別の作品で。ありがとうございました。

2025年4月21日 楽園屋 楽

Pixiv ID 41315964

FANBOX <https://rakuenya.fanbox.cc/>

X(Twitter) @rakuenya

※違法アップロードは犯罪です。10年以下の懲役もしくは1000万円以下の罰金または
その両方が科せられます。違法アップロードには発信者情報開示請求、損害賠償請求などの
法的手段をとらせていただきます。

※2020年10月より改正著作権法が施行されました。
リーチサイトの運営、侵害コンテンツへのリンクの掲載も違法となります。
2021年1月より違法にアップロードされた著作物のダウンロードは刑事罰の
対象となります。一定の要件の下で私的使用目的でも違法となります。
※本作は有償で提供している作品です。

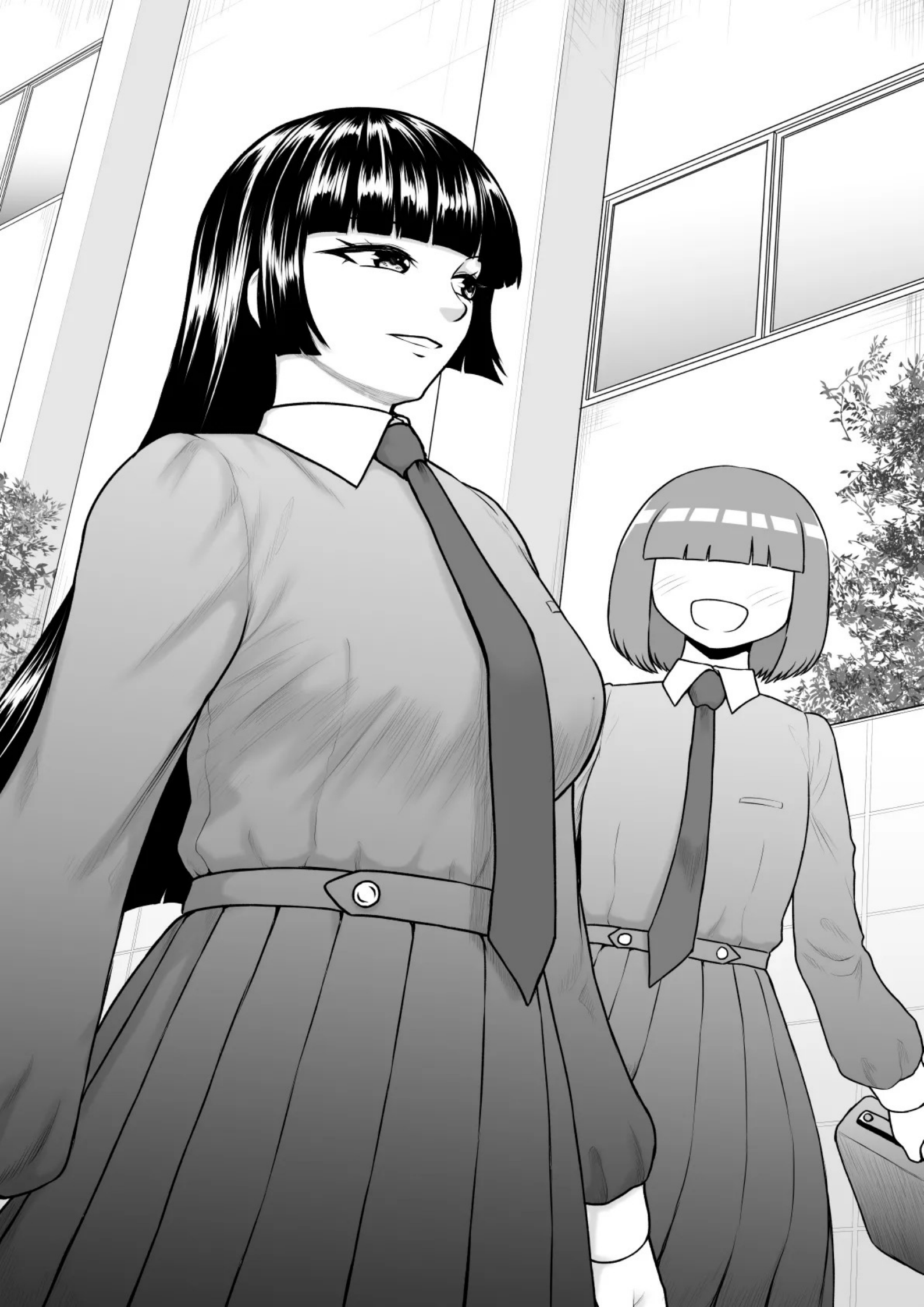
注意事項！

- ・本作品はフィクションです。実在の人物、団体等とは一切関係ありません。
- ・18才未満の閲覧禁止
- ・無断転載・複製・複写・頒布・共有・改変・翻訳を禁じます。
- ・無断転載を行った場合、著作物使用料を請求致します。
- ・本書の内容には犯罪行為の描写がありますが、犯罪行為を推奨するものではなく、実際にこの様な行為を行った場合、法律により罰せられます。絶対に真似をしないでください。
- ・違法アップロード等の著作権侵害行為を発見した場合、損害賠償請求、著作権侵害での警察への通報等の対応を取らせて頂く場合があります。

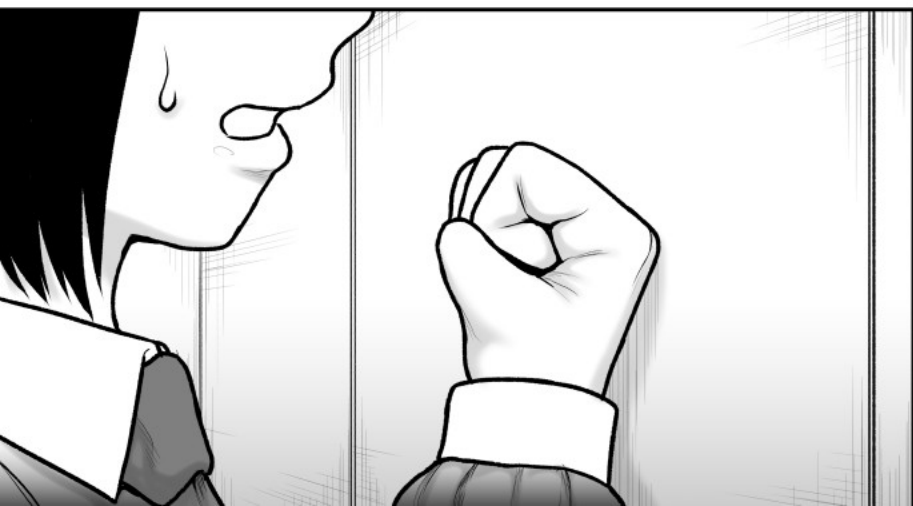
caution

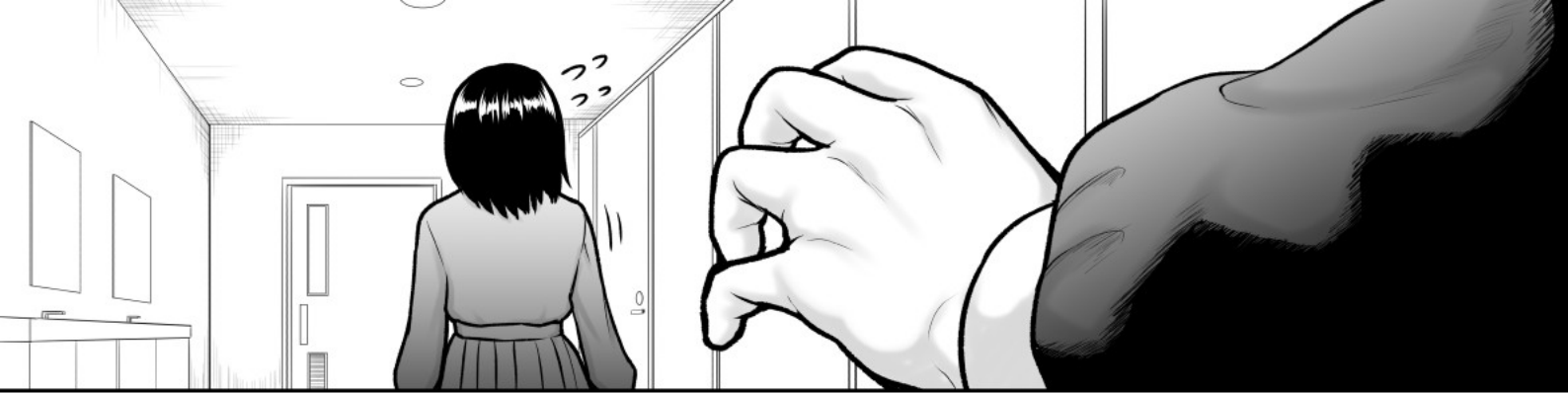
Illegal upload, unauthorized reproduction, duplication, copying, distribution, sharing, modification, and translation are prohibited.

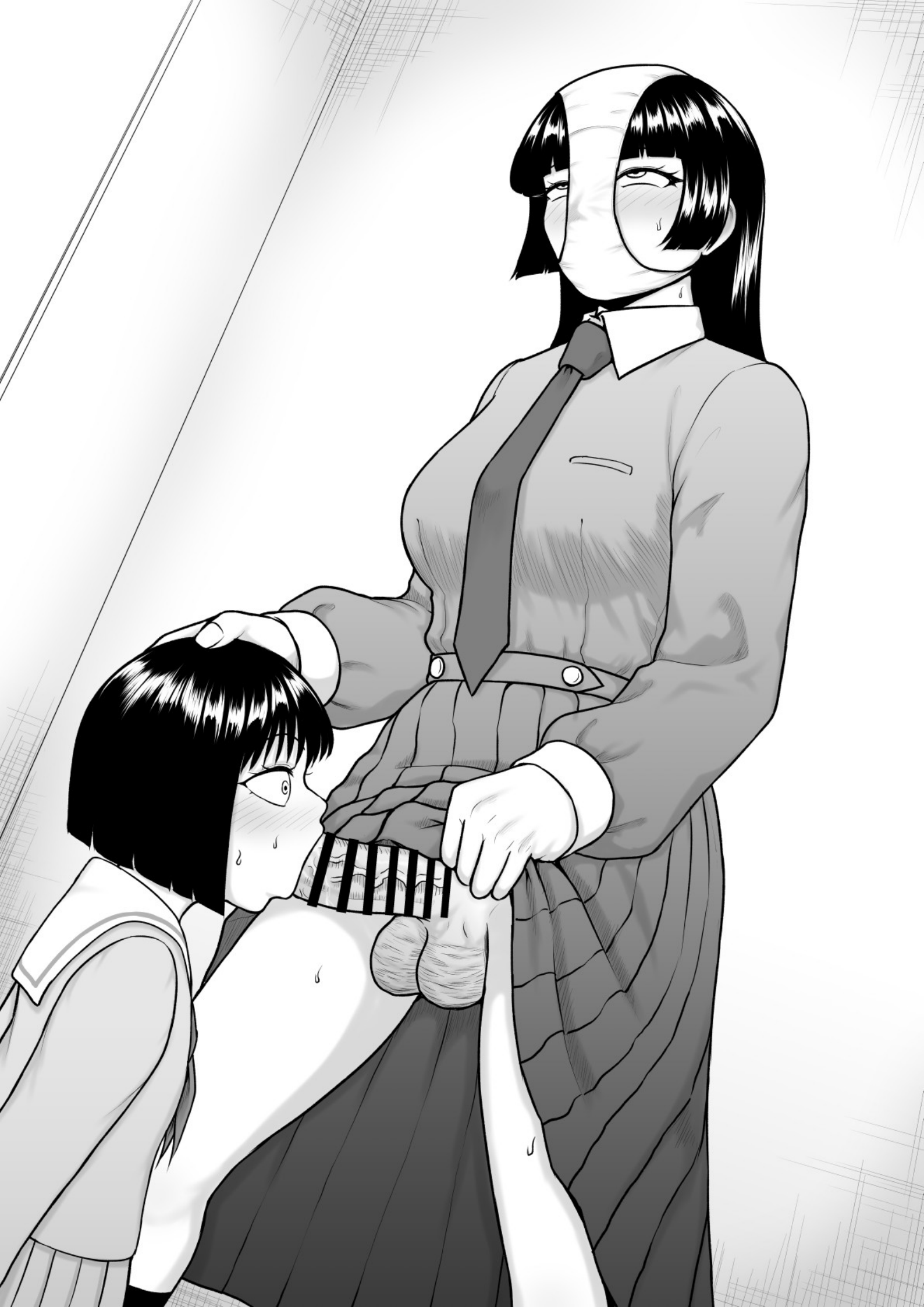


















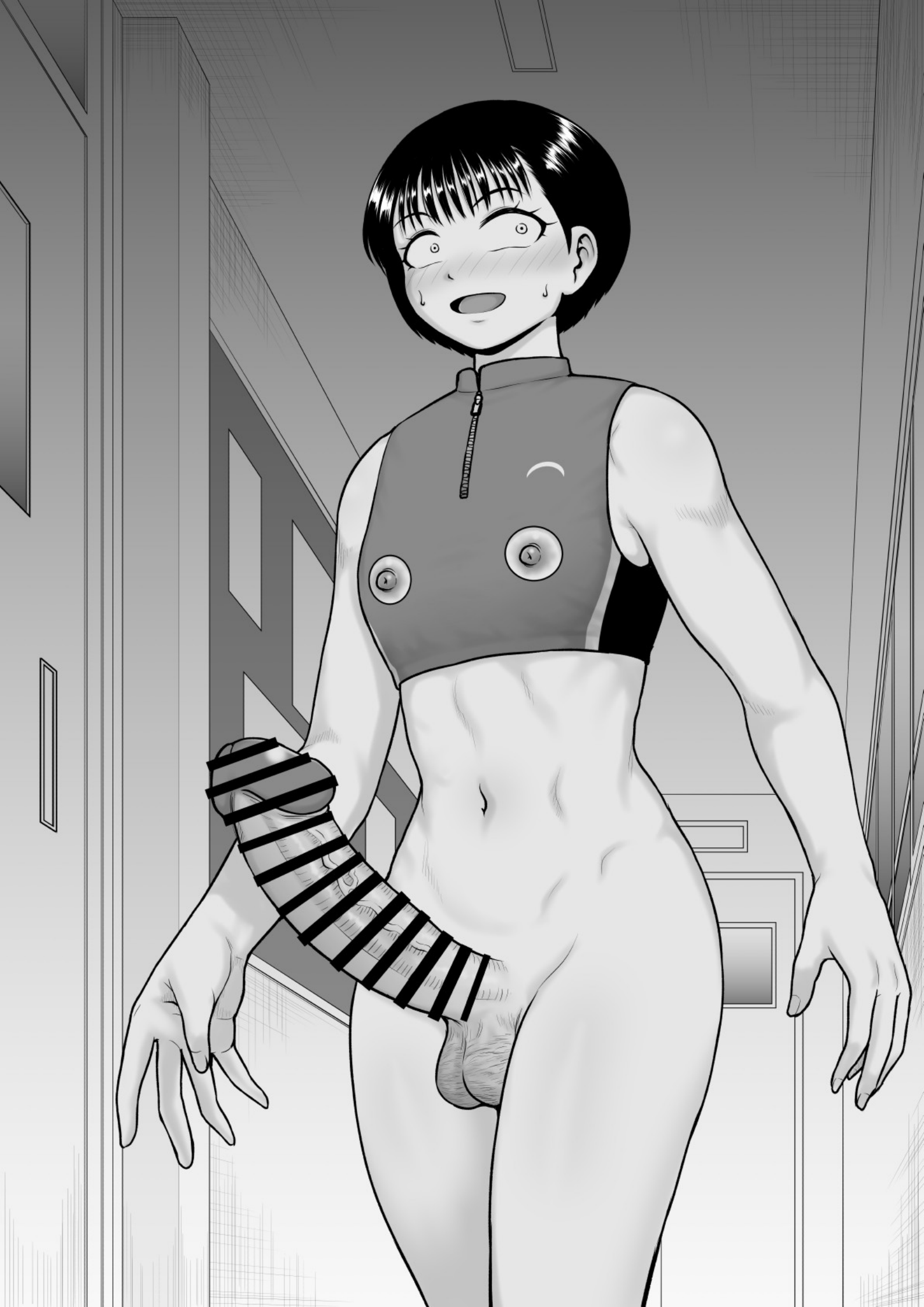


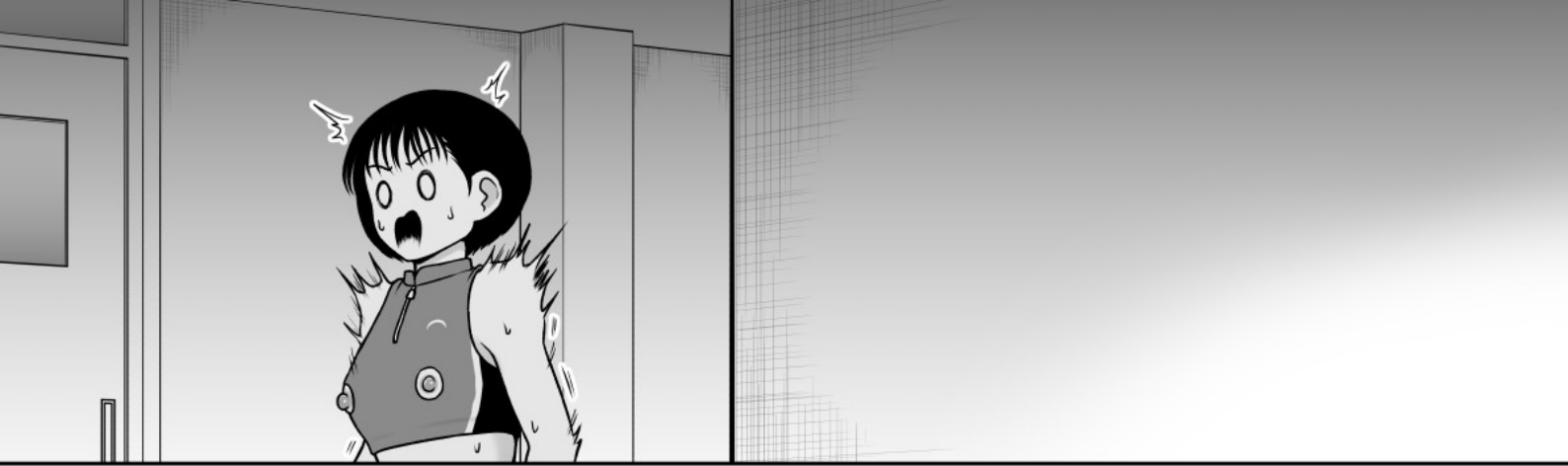






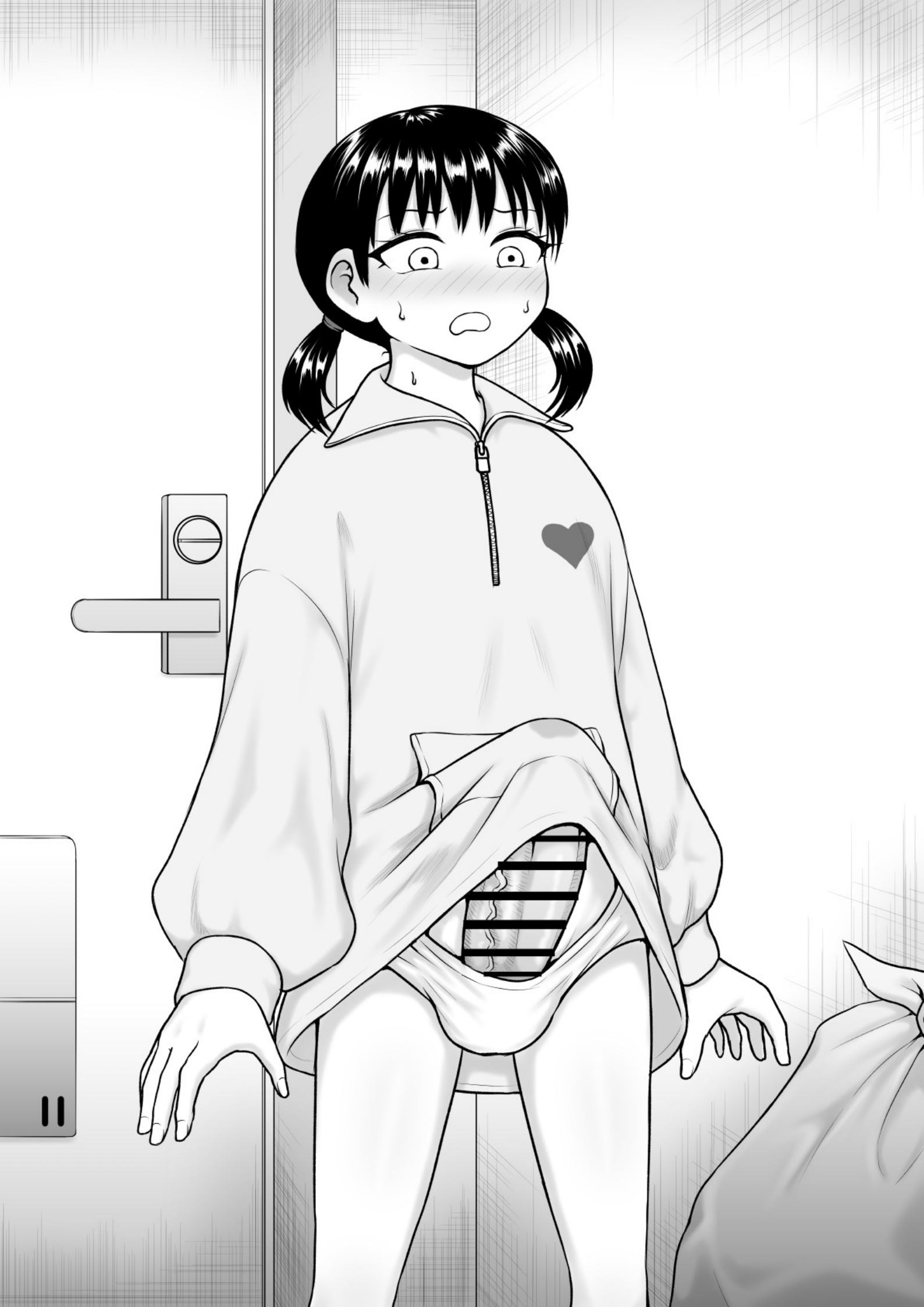




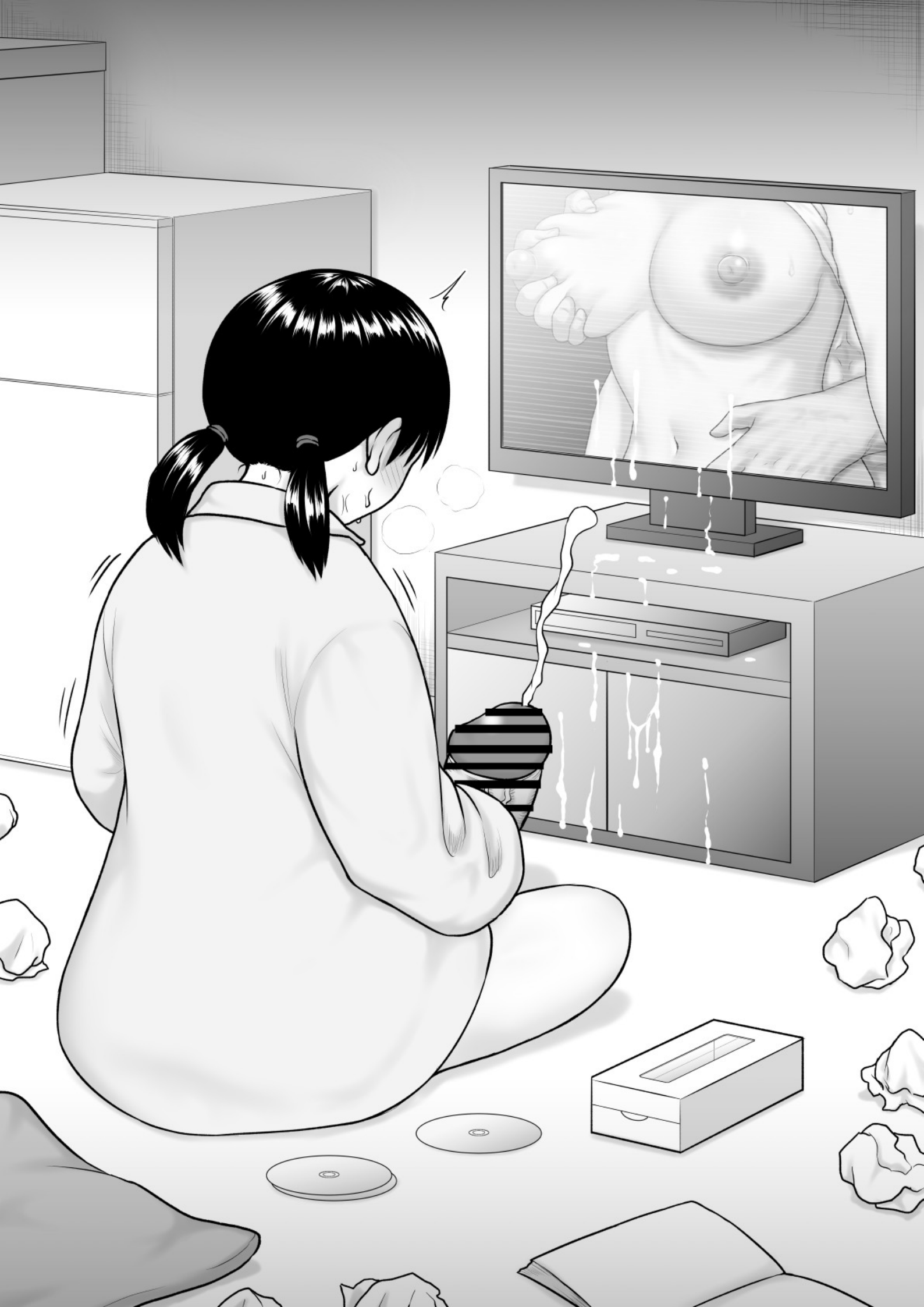






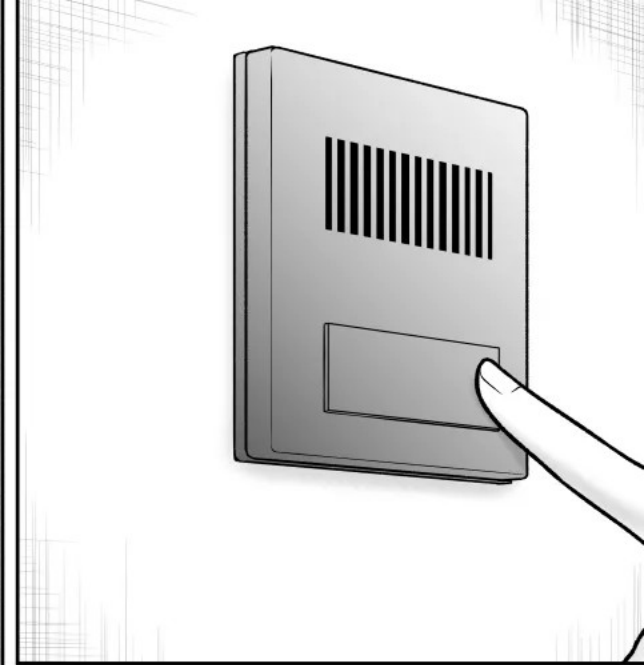


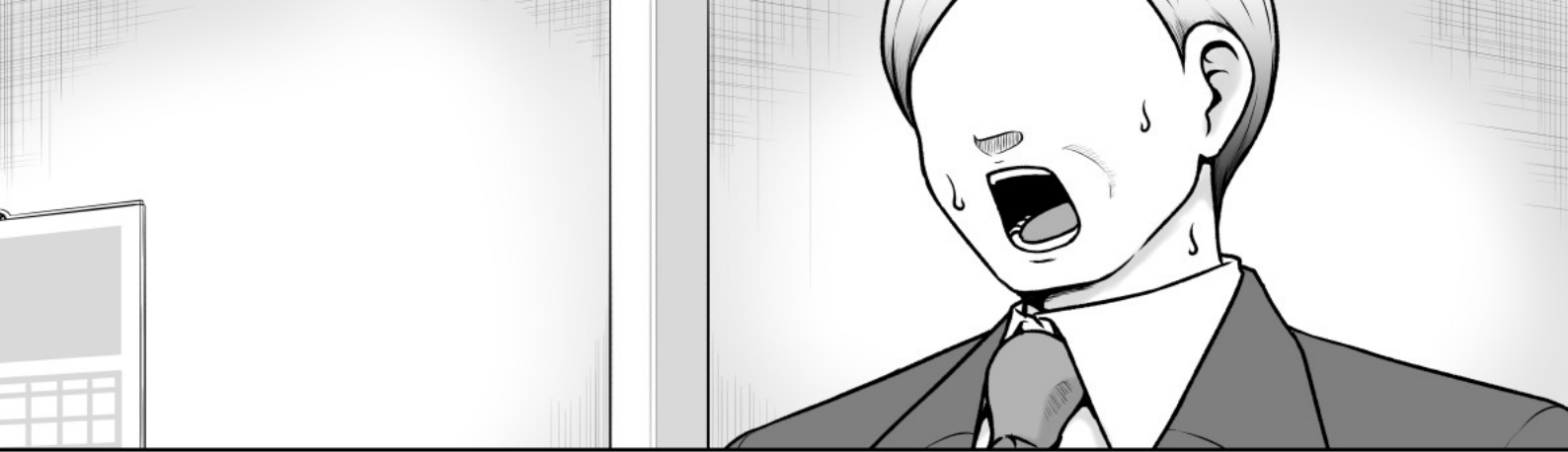










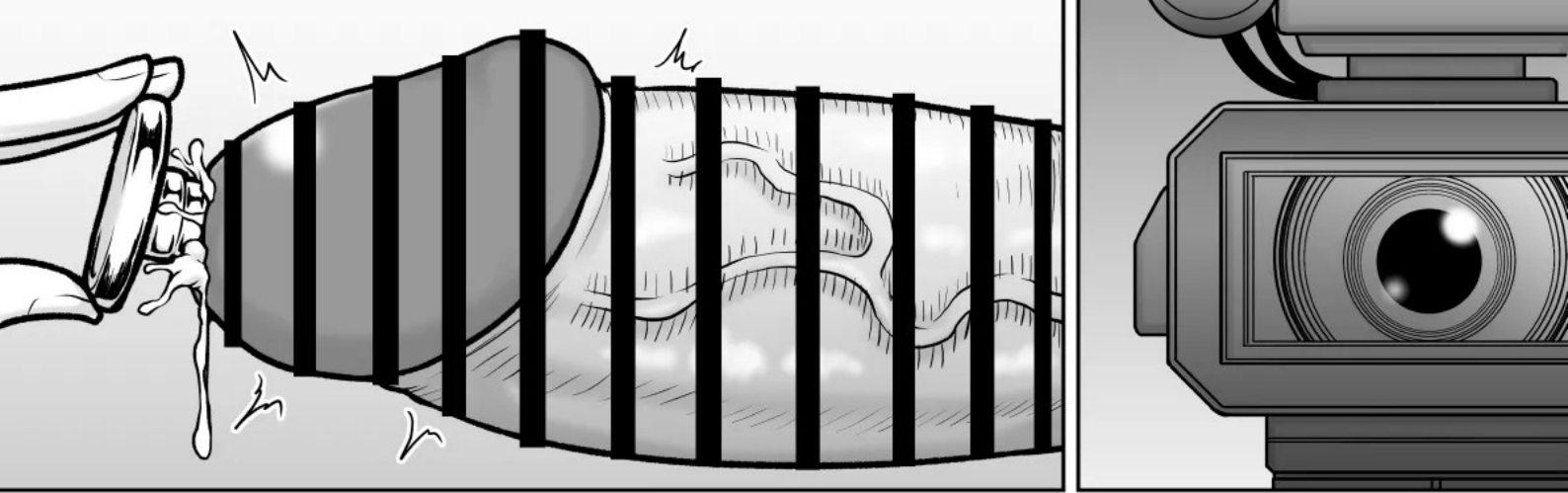


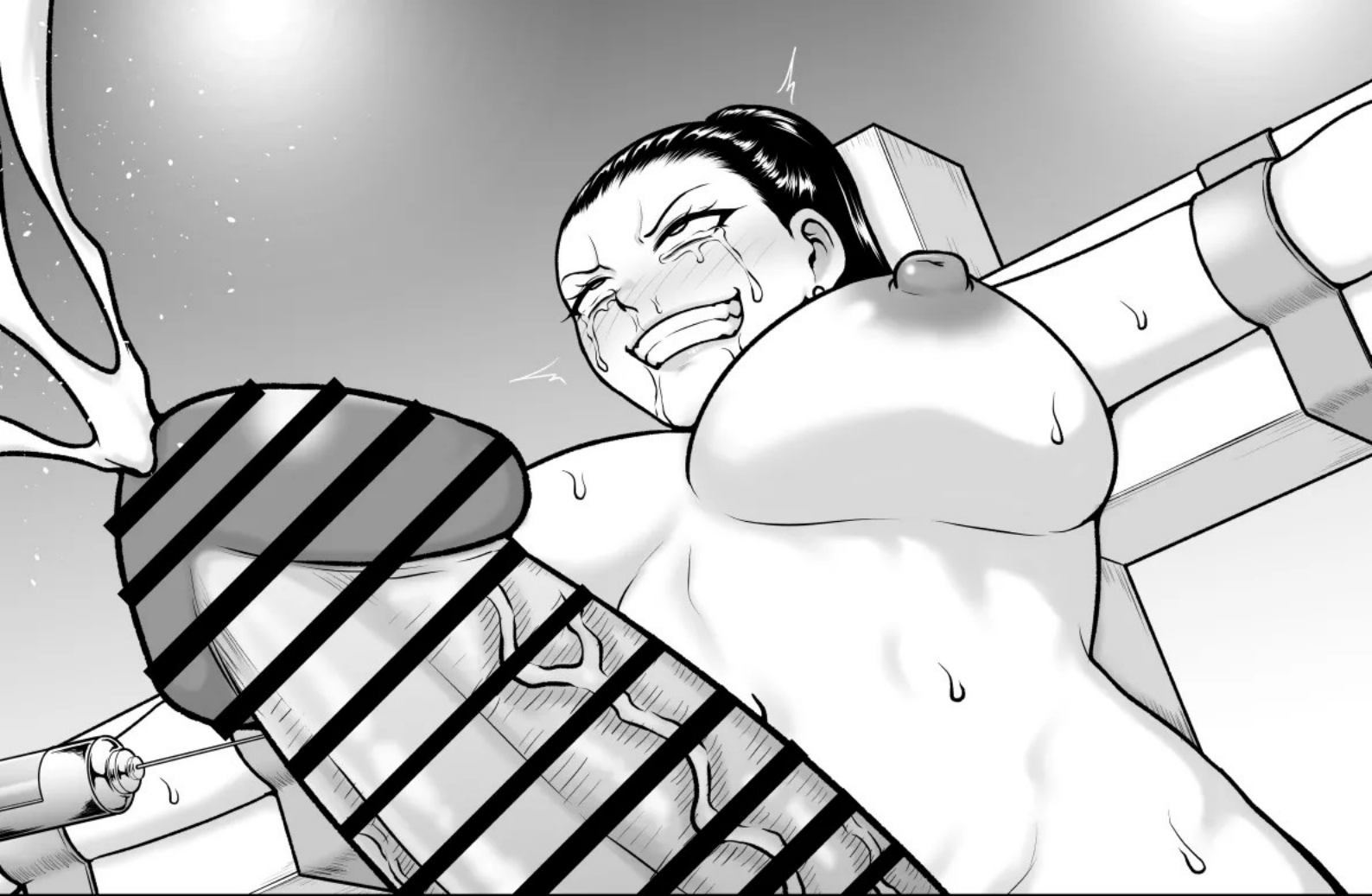
















豚

臭

♡チンポ♡

臭

バカ

アホ



※違法アップロードは犯罪です。10年以下の懲役もしくは1000万円以下の罰金またはその両方が科せられます。違法アップロードには発信者情報開示請求、損害賠償請求などの法的手段をとらせていただきます。

※2020年10月より改正著作権法が施行されました。
リーチサイトの運営、侵害コンテンツへのリンクの掲載も違法となります。
2021年1月より違法にアップロードされた著作物のダウンロードは刑事罰の対象となります。一定の要件の下で私的使用目的でも違法となります。
※本作は有償で提供している作品です。

注意事項！

- ・本作品はフィクションです。実在の人物、団体等とは一切関係ありません。
- ・18才未満の閲覧禁止
- ・無断転載・複製・複写・頒布・共有・改変・翻訳を禁じます。
- ・無断転載を行った場合、著作物使用料を請求致します。
- ・本書の内容には犯罪行為の描写がありますが、犯罪行為を推奨するものではなく、実際にこのような行為を行った場合、法律により罰せられます。絶対に真似をしないでください。
- ・違法アップロード等の著作権侵害行為を発見した場合、損害賠償請求、著作権侵害での警察への通報等の対応を取らせて頂く場合があります。

caution

Illegal upload, unauthorized reproduction, duplication, copying, distribution, sharing, modification, and translation are prohibited.